

108 骨シンチグラフィーによる血管柄付骨移植の経時的検討

村井恒雄¹, 室田景久¹, 富田泰次¹, 大久保康一¹,
大森薰雄², (東京慈恵会医科大学整形外科, 神奈川
県立厚木病院整形外科²)

広範にわたる四肢長管骨の骨欠損に対する遊離血管柄付骨移植は、現在広く利用されている有効な治療法である。今回、血管柄付骨移植症例に対して骨シンチグラフィーを施行、その診断的意義について検討した。

症例の内訳は、腓骨移植21例、腸骨移植6例、腓骨腸骨同時移植1例であり、術前、術後1週、1か月、3か月、6か月、1年毎に骨シンチグラフィーを行ない、その集積の経時的变化を定量的に観察した。骨シンチグラフィーは、^{99m}Tc-MDPを15mCi静注後、約3時間で行なった。

R I 集積は、術直後より移植骨全体に認められるが、移植骨への集積は、腓骨移植と腸骨移植とでは異なる経過をとった。すなわち、腸骨移植では術直後より高度な集積が認められ、経時に減弱する傾向がみられた。一方、腓骨移植では健常側と同程度の集積が持続した。また、移植腓骨の骨接合部での集積は、骨折の場合と異なる経過をとった。骨シンチグラフィーは、移植骨の生物学的活性、移植床との骨癒合についての機能的な情報を得るために有用であると考える。

110 肺小細胞癌治療前後の骨シンチグラフィの変化

北野保¹、宮川トシ¹、高田 実¹、中筋 孝史¹、
福永義純¹、石田 智恵子¹、豊田 敏子¹、
(大阪府立羽野病院RI科)

肺小細胞癌の治療前後に骨シンチグラフィを撮影しその治療効果判定の意義について検討した。対象は治療前後に骨シンチグラフィを含むstagingが行われた肺小細胞癌症例63例(Limited disease 23例, Extensive disease 40例)で、方法は^{99m}Tc-HMDP 20mCi静注後3.5~4時間後に、ワンパスコリメーター装着のシーメンス社製シンチ カメラLFOVにて、正面と背面の全身像を撮影した。治療前の骨シンチグラフィ陽性率は13例(20.6%)であった。治療前後の比較では、陰性→陰性47例(74.6%)、陰性→陽性3例(4.8%)、陽性→陰性1例(1.6%)、陽性→陽性(減少)2例(3.2%)、陽性→陽性(不变)4例(6.3%)、陽性→陽性(増悪)6例(9.5%)であった。肺の原発部位が発効しているにもかかわらず骨シンチグラフィ不变の症例が9例あり、單発で肋骨前部、胸、腰椎陽性例で、いずれも偽陽性と考えられる症例であった。

109 骨シンチグラム用^{99m}Tc-MDPキットMedorionate II(N165)アマシャム使用経験

田ヶ谷二三夫 (都立墨東放射線科)

アマシャム社骨シンチグラム用^{99m}Tc-MDPキットMedorionate IIを試用する機会を得たのでその結果を報告する。

Medorionate IIは、同社^{99m}Tc-MDPキット(N115)と同効品であるが、標識率を向上させ、^{99m}Tc最大500mCi/バイアルの安定標識を保証している。¹86年6/1~'87年4/30までに当科で施行した骨シンチは約250例で、この中他社キットで施行したもの、およびアナログカメラで取ったものを除く、130例のシンチについて検討した。

調製法は生食にて溶解したMedorionateを一人20mCi宛用意した^{99m}Tc溶液と混和、静注3~4時間後デジタルカメラにて全身シンチをとり、肋骨椎体等が明瞭に分離読影できる例を excellent, 前後を参考にしてなんとか全部判定できる例を good, 困難の判別困難な例を poorとした。

結果は130例中、

excellent	90 (69.2%)
good	35 (26.9%)
poor	5 (3.8%)

のごとく70%近く excellent image が得られた。

111 癌の骨転移と骨痛

中野俊一¹、長谷川義尚¹、井深啓次郎¹、橋詰輝巳¹、
野口敦司¹、小山博記²、小松原良雄³、(大阪府立成人
病センター、アイソトープ診療科¹、同外科²、同整形
外科³)

癌の骨転移における骨スキャンの異常集積と骨痛との関係についてはいくつかの報告があるが、必ずしも一致した成績は得られていない。乳癌においても、骨転移に症状を伴う率は非常に高いとする報告や骨転移例の約1/3において骨痛を伴わないという報告がある。

我々は昭和60年1月から2年間に、当センターにおいて乳癌で骨スキャンを施行した400例で、注射前に骨痛の有無について問診を行い、異常集積との関係を調べた。骨スキャンはTc-99m MDP 20mCi静注、3~4時間後にガンマカメラでスキャンした。骨スキャンで異常集積をみとめたのは114例であるが、多発性集積、X線、フォローなどにより骨転移と診断されたのは38例で、このうち骨痛を訴えなかつたのは9例(24%)で、術前1例、術後フォロー中のもの8例であった。多発性集積を示し、骨痛のある例でも、腰背痛のみを訴える例が多くみられた。